

【実施概要】

基本構想の資料及び閲覧箇所

資料：西海岸周辺エリア基本構想（素案）[PDF：17.9MB]

閲覧場所：浦添市役所ホームページ及び浦添市役所 本庁舎4階 港湾基地政策局 基地政策課窓口

※閲覧時間：午前9時～午後4時（土日祝祭日・年末年始を除く）

募集期間

令和8年2月13日（金）～令和8年3月6日（金）17時15分まで

意見を提出できる人

- (1) 浦添市内に住んでいる人
- (2) 浦添市内に事務所または事業所を所有している個人または法人その他団体
- (3) 浦添市内の会社等に勤めている人
- (4) 浦添市内の学校に通っている人
- (5) 本計画について利害関係を有する人

【実施結果】

意見提出件数

52名118件

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
1	(記載なし)	<p>イノーを埋め立てて白い砂浜を造成する計画は、生態系や水質、景観への影響が懸念され、環境保全の観点からも慎重な判断が求められるものと考えます。</p> <p>自然環境の保全を重視し、自然観察ツアーなど環境に配慮した形で活用することは、持続可能な地域づくりや関連法令の趣旨にも沿った、より適切な在り方ではないでしょうか。</p>	<p>本基本構想では、ご指摘の「イノーを埋め立てて白い砂浜を造成する計画」は想定しておりません。</p> <p>カーミージー周辺のイノーが広がるエリアにつきましては、自然的環境を保全する区域として位置付けており、今後も自然環境の保全・活用を重視した計画の検討を進めて参ります。</p>
2	P.8	<p>「沖縄の特性を活かした持続可能な海洋島嶼圏の形成」</p> <p>自然環境の保全、啓発を図ると掲載されているが那覇軍港移設されることで環境破壊は必然となる。「安全安心でやすらいだ快適環境都市」と唄えなくなると思われる。那覇軍港は、キンザーとはリンクするので返還もされない。「那覇軍港の長期構想に基づく埋め立てエリア」はいらない。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>
3	(記載なし)	<p>浦添西海岸埋め立て反対</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
4	P.26	<p>あくまでも素案なので分かりませんが、栈橋をつくってサンゴ礁を観察することが可能となる素晴らしいA I 予想画像についてです。確かに素晴らしいですが、現在観察する際は、サンゴのポリプが活着できずに流れてくる場合があるので、ガイドさんが踏まないように教えてください。このようにガイドさんの案内を聞きながらであれば遠浅なイノーなので、人工工作物を設置しなくてもいいのではないのでしょうか。台風時に工作物が破損して、サンゴを傷つける事も危惧されるのではないのでしょうか。</p>	<p>カーミージー周辺のイノーが広がるエリアについては、自然的環境を保全する区域として、本基本構想においても自然環境の保全・活用を重視した計画を検討して参ります。</p> <p>浮栈橋については、頂いたご意見を踏まえ、今後、具体的な取組み内容を検討する際に、台風が予想される際には人力での回収が可能な構造等や生態系や景観、安全性・維持管理等への影響に留意して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
5	P.26	<p>あとは、計画にはないのですが、某通信会社は無線式の水質管理端末を海に浮かべて、水質に異常があれば親機に知らせる仕組みがあります。現在地は海水域と汽水域が交わる海域で、おそらく推測ですがPH値、硝酸値、亜硝酸値、硬度等が特殊な海域でプランクトンも豊富なのではないかと思慮しています。それによって浅瀬にも関わらず豊富な餌を求めてタマンやチヌなどが現れることがあるのではないかと予測します。基本設計の際には、ぜひとも潮の流れも含めた科学的な分析をお願いしたいと思います。僭越ながら、素人意見ですみません。</p>	<p>頂いたご意見を踏まえ、今後、具体的な検討を行う際に、水質等の分析の重要性について、必要に応じて専門的な知見の把握等を行いつつ検討を進めて参ります。</p>
6	構想の全体	<p>人工的な自然を壊した施設は不要ではないでしょうか？もっと自然に寄り添った計画にならないのでしょうか？ここにしかないものを未来に向けて大切にしながら自然を楽しむことはできると思います。それを求めて人がくるのでは？誰のための開発??</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
7	P.10	<p>海を潰すのは自殺行為です。直ぐに中止して下さい。</p> <p>沖縄にはまだ綺麗な自然が残っています。その自然を破壊しようとするのは正気の沙汰ではありません。何故ならそれは自殺行為だからです。</p> <p>気候変動はご存知でしょうか。今世界で戦争が起きて、気候変動が更に加速されている事をご存知ですか。</p> <p>地球は海と山で全ての物を浄化しています。それが地球の営みです。この営みに反する行為が私たち人間がしている事です。小学生でも幼児でさえも理解できる自然の営み、自然との共生を、何故私たち大人が理解出来ずに彼ら子ども達の未来を潰すのでしょうか。私たちには子ども達があります、その子たちに顔向けが出来ますか。</p> <p>海岸沿いの浦添市には米軍基地もありますが、ファミリー層が多く住んでおります。綺麗な海岸を何故わざわざ壊そうと思うのでしょうか。</p> <p>その海岸には珊瑚が戻って来ている喜ばしい状態です。自然は私たち人間に何の文句も言わずに黙々と私たちが壊した物を取り戻してくれています。</p> <p>米軍が海を埋め立て基地を造るとは、何と馬鹿げた事をするのか、何故日本政府はそれを許すのか、余りにも無知な行為です。無知は罪、私たち大人は子ども達の首をゆっくりと絞めて殺そうとしているのです、あまりにも無知です。</p> <p>海岸で訴えている方々の声を無視しないで下さい。</p> <p>地元の方々が道路沿いに立ち、看板を掲げ、海岸沿いにあるショッピング施設の方々に知ってもらいたいと訴えております。</p> <p>内容は浦添市の西海岸は米軍基地を造ることが進んでしまっているとのこと。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
8	P.10	<p>資料の沖縄県浦添市での西海岸埋立構想ですが、米軍基地からの返還を見据えた(P10)とありますが、具体的な変換の目処はなく米軍基地をつくることに加担してるようなものです。</p> <p>環境保全や教育を大義名分としていて、一見、楽しそう！！となりそうなイメージ図かもしれませんが、全くもって人間中心なまちづくりを構想しており、どれだけ海を汚し、自然環境から程遠い「不自然な自然環境による作られた自然の教育」をしようとしているとしか思えない構想です。</p> <p>これは市民や働く人には広く周知されていないのが現状です。本当に市民の為になる事なら堂々と広く認知されて当然ですが、この様な後ろめたさの表れの行動は政府でも人間としてしてはなりません。</p> <p>沖縄を護りたいと思いませんか、中止するべきです。この海岸で子どもの頃から育ち、自然に生かされていた方々に、そして今の子ども達に、顔向けが出来ますか。ここは市民の憩いの場所として成立しており、余計な人工物はいない場所です。</p> <p>もうすでに綺麗な夕日の先には那覇方面の埋め立てや工事のクレーンが遠く見えてしまう状態ではありますが、何度でも言います。</p> <p>海を潰すのは自殺行為です。無知は罪。私たちがこの地球で生き残る為にも、子ども達に未来を遺す為にも、今直ぐに中止してください。</p>	<p>P.10については、本基本構想に関連する計画として、「牧港補給地区跡地利用計画」を紹介しております。なお、返還については、国道58号側の倉庫地区の大半を含む部分と言われるエリアが2025年度またはその後、海側の残余の部分と言われるエリアが2024年度またはその後とされています。ただし、現時点において明確な返還日は示されておりません。</p> <p>本基本構想では、カーミージー周辺の自然的環境を保全する区域を中心に自然環境の保全・活用を1つの柱とし、自然環境に十分配慮しつつ、地域の方々をはじめ誰もが海と共に過ごし、学び育てる場づくり等を検討して参ります。</p> <p>なお、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
9	(記載なし)	<p>浦添西海岸は、都市部にありながら多くの方が親しむ自然海岸がろうじて残されているエリアです、むやみに手を加えて開発をするのではなく、自然をそのままの形でさらに環境改善を図ることが、今後の浦添や沖縄の財産となると思います。</p> <p>A1で作成されたどこかのリゾートを模倣するような箱モノやハード面の開発ではなく、長期的人材や雇用創出として環境学習や体験などの人を活かすソフト面の充実に重きを置いて街づくりを進めてください。</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しており、環境学習や自然体験など、人材育成や雇用創出にもつながるソフト面の取組の充実にも配慮しながら、訪れる方と暮らす方が西海岸の自然に改めて目を向けられるようなまちづくりを検討して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
10	(記載なし)	<p>計画に深く関わる米軍基地の今後の見通しがほぼ示されていません。まずはキンザーの返還がなければ計画自体が成り立たないはずで、より具体的な返還時期を米軍に示すよう要求をお願いします。また、新たな軍港と巨大防波堤ができてしまえば、自然環境に深刻な影響を与え、景観としても計画に記されているようなものではなくなってしまいます。現在普天間基地も返還を見送るような話が後出しで出されていますが、軍港ができればキンザーと連携する利便性から、条件を増やして米軍が返還をしない可能性は、大いに考えられます。軍港建設中止、キンザーの早期具体的返還を、日米政府に求めてください。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
11	(記載なし)	<p>キンザー返還に伴い、現在使える施設内の物資倉庫などをそのまま活かして、那覇港湾計画などの物流空間に利用し、SDG sに基づき新たな埋立を行わないでください。また現在先行プロジェクトだけでもかなりの計画がされているので、交流賑わい空間の埋立も不要、むしろ埋め立てることで価値が下がると思います。クルーズ船やマリナーに関しては、狭い海域を埋め立てて猥雑にするのではなく、隣接する那覇港や宜野湾マリナーと連携し、返還されたキンザーを活用し道路整備で海と陸との人の流動を促したほうが、GW20250での那覇～浦添～宜野湾をつなぎ、地域の特性を活かせると思います。</p>	<p>那覇港港湾計画につきましては、那覇港全体の港湾機能や港湾空間の利用のあり方を定める計画であり、その策定・改定は那覇港管理組合が行っております。浦添市西海岸周辺エリアは一部エリアが那覇港港湾計画の対象区域に含まれていることから、那覇港港湾計画や那覇港長期構想の内容を関連計画として踏まえつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像や市としてのまちづくりの方向性を検討するために本基本構想を作成しているところです。</p>
12	(記載なし)	<p>浦添の街づくりを決定する大きな意見なのに、パブコメ募集の周知が知られず市民置き去りに計画が進む感じがします。市民共同のまちづくりとしてもっと主要街頭などに大きく掲示し、市民の関心を集めることはできないでしょうか。また、意見を求めた1か月後に基本構想として本発表するには検討期間が短すぎます。市民に意見を求めたアリバイとしたと思われかねません。</p>	<p>西海岸周辺エリア基本構想（素案）の意見募集につきましては、市ホームページへの掲載や広報紙への案内等により周知を行い、一定の募集期間を設けて市民の皆様からご意見を受け付けました。お寄せ頂いたご意見はすべて分類・整理のうえ、西海岸周辺エリア基本構想の作成や今後の検討に活用することとしております。次年度以降は、本基本構想をたたき台としながら、市民の皆様とともに浦添西海岸周辺エリアの将来像について検討を進めて参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
13	(記載なし)	<p>また計画の位置づけが、GW2050や県や市の下位となっていますが、市民主体の街づくりをボトムアップするべきではないかと思ます。</p>	<p>本基本構想は、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画や第五次浦添市総合計画、牧港補給地区跡地利用計画などの上位・関連計画と整合を図りつつ、浦添西海岸周辺エリアの将来像を浦添市として検討するための「構想」として位置付けております。「GateWay2050 PROJECTS」についても、その一つとして広域的な動向との整合を図るべき関連計画として扱っているものであり、本基本構想は、浦添西海岸の地域資源や市民生活の実情を踏まえたうえで、エリアの方向性を検討するものです。</p> <p>次年度以降、本基本構想をたたき台として、市民の皆さまとともに浦添西海岸周辺エリアの将来像について検討を進めて参ります。</p>
14	(記載なし)	<p>この海域は国立公園である慶良間諸島と連なり、この時期は沖合にクジラの姿も現れます。何よりもまず、人間が造ることのできない環境を残すことを優先することが、重複になりますが、SDGsとして持続可能的長期的価値の創出となります。浮棧橋の設置も本来の自然を損なうものであり、設置しても台風の多い沖縄では破損修復に無駄な予算が想定されるのではないのでしょうか。</p>	<p>カーミージー周辺のイノーが広がるエリアについては、自然的環境を保全する区域として、本基本構想においても自然環境の保全・活用を重視した計画を検討して参ります。</p> <p>浮棧橋については、台風時には人力での回収が可能な構造を前提として検討しており、生態系や景観、安全性・維持管理等への影響も踏まえながら、今後その必要性や具体的な整備内容について慎重に検討して参ります。</p>
15	(記載なし)	<p>近年オーバーツーリズムが問題とされ、沖縄の観光地でも海の生き物でなく人間を見に行ったようだと言われることもあります。浦添西海岸の魅力は、のんびりと気軽に自由にたたずめる海であり、無理に「賑わい」を求めるのは、価値低減になりかねません。土地や海を金銭的利益優先で考えるのを見直してほしいと思ます。</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、過度な賑わいの創出を目的とするものではありません。自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向けられるような拠点形成を目指しています。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
16	(記載なし)	海を活かした産業について、具体的にどのようなものが計画されているのかわかりたいです。（例：どのエリアで特定の海産物の養殖を行うなど）また現状はどのような漁業がおこなわれているのでしょうか。かつて西海岸道路ができる前はカーミージーのそばの小屋に地元の方が集まり、よく磯での収穫などをされていたようですが、最近は見かけないように思われます。	<p>本基本構想において、海を活かした産業については、先行プロジェクトの1つとして、牧港漁港における漁業環境改善と海業育成に向けた再開発構想の推進を記載しております。</p> <p>牧港漁港は、長年地域の水産業を支えてきた重要な拠点ですが、施設の老朽化や周辺環境の変化により、安全で持続可能な漁業運営の再構築が求められております。そこで、本基本構想では、「海を活かした産業振興・育成プロジェクト」として、牧港漁港における漁業環境の改善、付加価値向上に向けた取組み等の方向性を示し、今後、漁業者や関係団体と連携しながら具体的な内容を検討を進めて参ります。</p>
17	(記載なし)	災害時の避難道が川沿いなのは、津波の場合危険ではないでしょうか。パルコ屋上に逃げる方が現実的だと思います。また、長期的避難所としての計画を行ってほしいです。	<p>本基本構想に位置付けている「西洲避難道路整備事業」は、想定される津波・大潮等の災害時に、浸水が想定される区域から国道58号線方面への避難経路および物資輸送経路を確保することを目的としており、標高や浸水想定範囲等を踏まえてルートを設定しているものです。</p> <p>なお、避難先となる施設のあり方等については、今後の防災計画や関係機関との協議の中で検討を進めていくこととしております。</p>
18	(記載なし)	市民が暮らしやすい街として、公共施設（学校公営住宅公民館など）をつくり、いざというときはそれらを避難所としてほしいです。	<p>本基本構想では、牧港補給地区跡地利用計画との整合を図りつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像を検討する位置付けとしており、公共施設や避難所等の具体的な内容については、今後、関係機関と連携して検討して参ります。</p>
19	(記載なし)	市主体で定期的にビーチクリーンを行うなどして、市民が海に親しみ交流する機会を持ち、ソフト面として他の地域への啓もう活動をけん引してほしいです。	<p>本基本構想では、自然環境の保全・活用を通じて、市民が海に親しみながら学び・交流できる場づくりを目指しており、頂いたご意見は、今後の具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
20	(記載なし)	<p>浦添市の西海岸エリアはこれ以上の工事による改変を行わずに、今の状態を残して欲しいです。</p> <p>特に、どんな汚染が引き起こされるか未知数の軍港はどうか作らせないで欲しいと一県民と願っております。</p> <p>現在の浜辺や護岸に東屋などを作り、夏でも心地よい滞在を可能にして欲しいです。</p> <p>合掌</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
21	(記載なし)	<p>埋め立てに反対です。美しい海を残してください。自然を破壊しないでください。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>
22	(記載なし)	<p>自然環境、生態系を損なってしまう案に反対です。そもそもこの場所に作らなければいけないのかどうかから検討し直すべきです。再エネ(風力やメガソーラー)ではすでに地元の問題を解決し雇用も生み出しつつ、自然環境を保全または改善していくやり方がいくつも実現しています。せめてそのような事例に学び、将来世代にプラスになるようなやり方を求めます。</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p> <p>頂いたご意見のような、持続可能な地域づくりの考え方については、今後、具体的な取組みを検討する際にとさせていただきます。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
23	P.15	<p>自然環境を地域資源にしているのなら埋め立ては行わないのが良いのではないのでしょうか？沖縄は米軍基地のせいでサンゴ礁や土地を破壊して自然環境が損なわれています。自然保護を第一として埋め立てを行うのをやめてください。沖縄の海を残してください</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>
24	P.10	<p>今回の計画に反対する。那覇港湾施設代替施設とあるが、米軍の軍港として利用される可能性や、またその際の環境に与える影響をできる限り詳細に発表すべき。経済に与えるメリットのみを羅列するのではなくデメリットもの説明も必要。</p> <p>また、米軍によるPFASなどの環境汚染も問題になっている中で、生態系を破壊する可能性のある工事はすべきではない。「自然的環境を保全する区域」とあるが自然環境は区画で区切って守れるようなものではないのではないか。一部の人の利益のために税金を投入し豊かな自然を破壊するのはやめてほしい。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>
25	(記載なし)	<p>浦添西海岸の埋め立てに反対します</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
26	P.24	<p>環境保護と言いながら派手な施設を作ることは保護ではなく破壊です なぜ自然をそのまま活かさないのでしょうか 沖縄の自然をこれ以上壊さないで欲しい</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
27	P.21	<p>沖縄防衛局における環境アセスメント等によっても示されていますが、1974年のSACO合意と現在の自然環境保全の観点は異なるものとなっています。「古琉球」を謳うのであれば、尚のこと希少な天然の「カーミージー」を埋め立て破壊すべきではありません。</p> <p>2013年に松本市長は琉球新報に「宜野湾にホテルや人工ビーチなどがすでにあり、浦添に自然海岸を残した方が地域全体として価値が上がると思う。検討したい」と説明したと記事に残されています。当時の「原点」に立ち返っていただくことを強く望みます。「価値」や「ポテンシャル」において、自然そのままの希少性に勝るものはありません。ただの人工ビーチであれば、浦添西海岸である必要性はありません。あれだけの水平線が広がるサンエーパルコのフードコートは代替不可能です。</p> <p>過度に「観光地化」されていない自然な美しい海岸が、あれだけ贅沢に眺められる場所、誰でもいつでも過ごせる場所のかけがえのなさこそがもっとも素晴らしい「価値」です。そのことを訴求していただきたいです。</p> <p>4キロもの防波堤を作ることで、カーミージーの環境が破壊される懸念については研究者からも指摘がなされていることをご承知おきかと思えます。軍港を眺めながら、その横で触れ合う「自然」とは一体なんなのでしょう。古琉球にも、これからの琉球にも、そのような景観や体験が必要とは考えられません。</p> <p>美ら海水族館にもカーミージーの紹介パネルがあります。そこで浦添西海岸をアピールすれば観光客の呼び込みは可能なはず。その受け皿となりえる大規模施設としては既にサンエー浦添西海岸パルコシティがあります。</p> <p>那覇軍港は使用実態もわかりません。浦添西海岸に移設した場合、水深が増すことから大型船舶の使用も考えられます。また、港があればそこから人も物も移動します。米軍が使う以上、どのような使い方をされるのかのリスクは浦添市にとってけて小さいものではないはず。壊すのではなく、守ることこそが行政に強く望まれていることです。浦添西海岸を埋め立てないでください。破壊しないでください。軍港なら那覇軍港があるのです。新たに環境を破壊し、いつ返還されるのかもわからない那覇軍港やキンザーこそが浦添市の発展に不必要だと考えます。</p> <p>時代にそぐわない移設計画の見直しを心からお願い申し上げます。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>また、カーミージー周辺のイノーが広がるエリアについては、自然的環境を保全する区域として、本基本構想においても自然環境の保全・活用を重視した計画を検討して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
28	(記載なし)	<p>浦添西海岸を心より愛する本土の人間として意見を述べさせていただきます。プレゼンテーションの資料を拝見いたしました。たいへん見やすいものになっているのですが、懸念は払拭できませんでした。一つは、人の手の入っていない海だからこそ育まれてきた自然の造形に対して、人為的な工作が施され過ぎているように思えます。西海岸は長期にわたって学校教育の一環として海の生物や環境が守られてきました。そのような地道な取り組みが、この計画では生かされているのでしょうか。ゾーニングの中にある那覇軍港移転箇所が、この海の環境にどのように影響をもたらすのか教えてください。にぎやかな街のなかにある自然海岸は、何物にも代えがたい貴重な場所です。軍港にはふさわしくありません。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>
29	(記載なし)	<p>那覇軍港の移設に反対します。生物多様性が非常に重要になっている昨今、自然を壊す構想を進めるべきではありません。計画をゼロに戻すべきです。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
30	P.10-11	<p>浦添海岸はイノーが広がる豊かな場所です。貴重なサンゴ礁も多く残っており、軍港を作るより、観光資源とするべきです。</p> <p>だいたいサンエーパルコシティや西海岸道路から軍港が丸見えになるというのは、現実的にあり得るのでしょうか？</p> <p>軍事機密などが観光客から丸見えのまま放置するのですか？そうでないとしたら、サンエーや西海岸道路から見えないように目隠しの壁を作るのでしょうか？いったいいくら予算がかかりますか？どんな目隠しをしても、美しい景色を期待してパルコに集う市民には迷惑です。パルコの収益も下がるでしょう。</p> <p>どちらにしても荒唐無稽です。沖縄にとってマイナスにしかありません。軍港移設に反対します。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
31	構想の全体	<p>カーミージー・西洲周辺について</p> <p>自然の海は自然のまま利活用し保全活動していくべきです。</p> <p>湊川自治会及び多くの市民が取り組んできた20年余にわたる里浜活動の評価がなく、市民の里浜としての活用が示されてない。埋め立てや駐車場建設、海上フロート型の遊び中心で観光客誘致が主眼とされる内容。</p> <p>少なくとも数年前までは、浦添市もしきりに「協働のまちづくり」を提唱し、里浜活動については市の「まちづくりプラン賞」の助成が大きな支えになって進められてきた。コロナ禍という「不幸」があったとは言え、カーミージー里浜活動への行政施策の遅れが、地域活動で連携を築いたアウトドアショップやサンゴ育成業者さえ撤退せざるを得ない羽目を作ってきた。海浜公園整備、里浜活動拠点施設は「協働のまちづくり」として取り組まれながら未だに道半ばだ。</p>	<p>カーミージー周辺のイノーが広がるエリアについては、自然的環境を保全する区域として、本基本構想においても自然環境の保全・活用を重視した計画を検討して参ります。</p> <p>浦添市といたしましては、地域の皆様との連携を図りながら、西海岸周辺エリアのまちづくりに継続して取り組んで参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
32	構想の全体	自然の海を本気で活かす気なら「那覇軍港移設」を断念し、那覇、宜野湾など既存のマリーナ施設や実現見通しのない「賑わい交流広場」のため西洲側を埋めて進める「浦添埠頭計画」も断念すべきです。その上で「浦添らしい」、美しい西海岸のイノーと広がる自然の海を生かした利用計画を策定すべきです	本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。 また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
33	構想の全体	<p>儀間市政下で始まった「西海岸開発計画」失敗の背景・原因など総括は済んでいるんですか？新しい「西海岸周辺エリア基本構想」では「新21世紀ビジョン」や「那覇港湾管理組合長機構計画」が上位計画のようだが、浦添市は資本構成でほとんど影響力を出せないのが実情。毎年約2億円近い分担金を出し、既に40億円も使っている。効果は確認できるのか？一部には「パルコ」進出を「成果」と評価する声もあるようだが、パルコ側からは「失敗事例」だろう。港湾道路が出来ても「クルーズ船バース」は那覇市側に独り占めされ肝心の観光客は流れてこない。だから5000万円（家賃含む運営費支出）で子ども支援センター設置で補わざるを得なかったのだろう。共稼ぎで忙しい若い人たちには便利で好まれるかもしれないが、消費社会の象徴的存在のショッピングセンターで育つ子供たちの行く末は心配だろう。</p> <p>浦添市のまちづくり計画は万事に「2番煎じもの」ばかり。自主性・主体性が見当たらず、那覇市側からは既に見透かされているだろう。沖縄市がアリーナを作れば裏祖もアリーナを言い出し、那覇市がJリーグスタジアムを計画したら・・・？西海岸の「里浜活動」を生み出すのにどれだけの労苦がすぎ込まれてきたか知ろうともしない。経済発展、開発だけが「まちづくり」ではない。肝に銘ずべきことだ。今後も那覇市側からは「よそ者扱い」され、浦添市が望むような配慮などあり得ないと覚悟すべき。浦添埠頭も基本的には「物流集積場所」であり、それも那覇港湾地区の需給次第。例えふ頭拡張があっても「RORO船バース」程度。空港、クルーズ船観光客の受け入れも泊から奥武山、軍港跡地、首里城～新都心での対応が中心だろう。浦添がもくろむ「浦添埠頭地区への集客など二の次の課題であり「賑わい広場・厚生交流広場」など閑古鳥となろう。</p>	<p>那覇港港湾計画につきましては、那覇港全体の港湾機能や港湾空間の利用のあり方を定める計画であり、その策定・改訂は那覇港管理組合が行っているものです。浦添市西海岸周辺エリアはこの港湾計画の対象区域に含まれていることから、本市では、那覇港港湾計画や那覇港長期構想の内容を前提条件として踏まえつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像や市としてのまちづくりの方向性を検討するために本基本構想を作成しているところです。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
34	構想の全体	那覇港湾管理組合は北道路計画で港湾道路3カ所をインターチェンジ方式での高架道路整備計画を着々と進めている。その中で「臨港道路浦添線」は北道路の一部だと明確に主張している。浦添は「本線＝4車線自動車専用道」をどこからどう通すのか全く何一つ示してない。まちづくりをコンサル会社だけに依存し、行政職員が自ら考え提案する努力、能力を失っているからだろう。カーミージーに出入りする北道路のトンネルもカーミージー橋の実現も地域住民からの提起によるもの。「国の事業」には一言もモノが言えない浦添市職員の体質は変わらないようだ。	西海岸道路については、本市のカーミージー以南の線形は未定であり、国により検討が進められております。本市としても、その過程で関係機関と調整を行って参ります。
35	構想の全体	市の都市計画街路として整備されるはずの「市道・牧港線」は北道路、港湾道路整備と並行して整備される約束だった。それが未だに一部土地取得が出来ず、市道や歩道、下水道整備もなされず、米軍攻下のままの放置状態。58号線への通り抜けも渋滞悪化の一方で、地域集落も通り抜け車両増加で環境は悪化するばかりだ。	市道牧港線については、港川エリアにおいて国道58号に接続する主要な動線であり、幅員13mの道路として都市計画決定されています。都市計画決定の内容に基づき、拡幅整備の事業化に向けて引き続き検討を進めて参ります。
36	構想の全体	カーミージーや隣接埋め立てを広げて駐車場を考えるなどモッテノホカだ。	港川周辺エリアについては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを目的としており、本基本構想に示した内容は、具体的な埋立てや海上デッキ等の整備を決定するものではなく、今後の検討の方向性を示すものです。
37	構想の全体	那覇軍港受け入れと引き換えの基地再編特別交付金による補助事業、とりわけ「受けのいい」学校関連施設を中心にした公共工事に頼るいびつなまちづくりだけが進んだ。市職員の能力低下は新体育館工事で15億円近い設計積算ミスを侵したことでよくわかる。そろそろ自覚すべき。	本基本構想は、浦添市西海岸周辺エリアが、環境、観光、産業、交通、レクリエーション等あらゆる分野から高いポテンシャルを評価されており、様々なプロジェクトが進められていることから、そうした各プロジェクトを包括し、西海岸周辺エリア全体の目指す方向性を示すことで、そのポテンシャルを最大化するために策定するものです。 本市では、西海岸周辺エリアの目指す姿の実現により、「市民・県民の生活が豊かになること」、「浦添市・沖縄県のビジネスの活性化」、「沖縄県の自立した経済発展」を目指して参ります。

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
38	構想の全体	<p>港川自治会役員の中には「軍港が出来てしまえばイノーの学習会も出来なくなる。海浜公園施設も作らない方がいいのではないか！」と主張する人も出ている。このまま進むなら「好き勝手にやればいい」という、投げやりの人々や市民はさらに増えるだろう。市民が安心安全に暮らせる、経済はそこそこでも心豊かに生涯を過ごせる「まち」を目指すべきです</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>また、本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p>
39	(記載なし)	<p>私は、サンエーのパルコから見る自然の西海岸の海が好きです。潮が引く時、海岸で遊ぶのが好きです。</p> <p>軍港が出来ると、サンエーのパルコから自然の綺麗な海と夕日が見れなくなります。自然の海岸で遊ぶ事が出来なくなります。自然の海で生きている、小さな魚達を初め生き物が住めなくなります。</p> <p>私は、私だけでなく、現代の沖縄県民と観光客を初め世界中の人々に、そして未来の人々に、悲しい思いをして欲しくありません。</p> <p>沖縄の本当の自然が残っている浦添西海岸を守りたい。</p> <p>よろしくお願いします。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
40	P.30-	<p>計画の位置づけが、GW2050 や県や市の下位となっておりますが、そこに住む人が主体になっての街づくりをボトムアップするべきではないかと思えます。</p> <p>この海域は人間が造ることのできない環境です。残して欲しいです。</p> <p>浮棧橋を設置しても台風の多い沖縄では破損したり修復したりに無駄なお金が必要になると思えます。</p> <p>浦添西海岸の魅力は、のんびりと気軽に自由にたたずめる海であること、無理に「賑わい」を求めるのは観光地としての価値低減になりかねません。</p>	<p>本基本構想は、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画や第五次浦添市総合計画、牧港補給地区跡地利用計画などの上位・関連計画と整合を図りつつ、浦添西海岸周辺エリアの将来像を浦添市として検討するための「構想」として位置付けております。「GateWay2050 PROJECTS」についても、その一つとして広域的な動向との整合を図るべき関連計画として扱っているものであり、本基本構想は、浦添西海岸の地域資源や市民生活の実情を踏まえたうえで、エリアの方向性を検討するものです。</p> <p>次年度以降、本基本構想をたたき台として、市民の皆さまとともに浦添西海岸周辺エリアの将来像について検討を進めて参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
41	(記載なし)	<p>私は本土在住の者として意見を提出します。</p> <p>1. 那覇軍港移設の必要性について 那覇軍港は1974年の日米合意以降、遊休化が指摘され続けています。入港艦船数は2002年時点で年間35隻程度にとどまり、その後の情報は米軍から公開されていません。膨大な公費を投じて新たな軍港施設を建設する必要性について、国は根拠を明示すべきです。移設ありきで議論を進めることには反対します。</p> <p>2. 返還の不確実性について 那覇軍港の返還合意から50年以上が経過してもなお実現していません。辺野古新基地建設が進んでも普天間基地の返還が担保されていない現状を鑑みると、浦添西海岸を移設先として提供したとしても、キャンプ・キンザーが確実に返還されるとは言えません。「返還を見越した先行開発」という論理は、不確実な前提の上に成り立っており、合理性に欠けます。</p> <p>3. 自然環境の不可逆的破壊について 埋め立てによる自然海岸の消失とサンゴ礁の破壊は、取り返しのつかない結果をもたらします。防波堤の建設による潮流の変化は周辺生態系に広範な影響を与えます。地球温暖化によるサンゴの白化が世界規模で進む中、現存するサンゴ礁を意図的に破壊する開発計画は、環境政策上も問題があります。</p> <p>4. 沖縄への負担集中について 本土在住の市民として申し上げます。日本の安全保障の負担が沖縄に著しく偏重している現状は不公正です。その是正のために「別の場所の自然を差し出す」という構造を、本土の人間が容認し続けることは許されないと考えます。</p> <p>以上の理由から、本構想を前提とした浦添西海岸の埋め立て開発に反対します。まず那覇軍港移設の必要性そのものを、沖縄県民の意思を最優先として、日米間で改めて検討し直すべきです。</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
42	P.8-11	<p>「位置づけ」と題して、「GateWay2050→県の上位計画→市の方針→本基本構想」というヒエラルヒー構造を提示している。これでは、本基本構想は上位・関連計画の駒にしかならず、西海岸の地域資源を活かし、住民や入り込み客を主体にした将来構想を作っていくことはできない。「地域資源、住民や入り込み客の要求から出発して、その実現のために上位・関連計画との整合を計っていく」という構想の立て方に変える必要がある。それは地方自治における住民自治の観点からも必須であろう。</p> <p>上記の問題点を具体的に検討する。新・沖縄21世紀ビジョン基本計画は「施策展開の基本方向」の第1に「誰一人取り残さない社会の形成」を掲げる。また、「沖縄の特性を活かした持続可能な海洋島しょ圏の形成」をうたう。また、第五次浦添市総合計画では、「まちづくりの方向」に「健康福祉都市」「快適環境都市」「市民協働都市」などを掲げる。牧港補給地区跡地利用計画も「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」「住む・働く・訪れる・滞在する都市機能の形成」「自然環境や地域資源を活かした都市環境づくり」などを掲げている。</p> <p>ところが、本基本構想案は、上記のような、住民の視点や、持続可能性の視点を大きく欠いていて、産業、賑わい一辺倒である。これは、Gate Way 2050 PROJECTS 基本構想案及びグランドデザインの「経済発展」「産業の創出」の面だけを強調した捉え方である。また、浦添市都市計画マスタープランでは、本案対象地区は「産業ゾーン、商業ゾーン、都市型リゾートゾーン」と区分されているが、そもそも、このゾーン分けには、持続可能性を担保する「自然環境保護」を掲げた区分が存在しない。つまり西海岸の地域資源を消費する利用法しか出てくる余地がないように、上位・関連計画、関連プロジェクトを引用している。このことは、本基本構想案の根本的な問題である。</p>	<p>本基本構想は、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画や第五次浦添市総合計画、牧港補給地区跡地利用計画などの上位・関連計画と整合を図りつつ、浦添西海岸周辺エリアの将来像を浦添市として検討するための「構想」として位置付けております。「GateWay2050 PROJECTS」についても、その一つとして広域的な動向との整合を図るべき関連計画として扱っているものであり、本基本構想は、浦添西海岸の地域資源や市民生活の実情を踏まえたうえで、エリアの方向性を検討するものです。</p> <p>次年度以降、本基本構想をたたき台として、市民の皆さまとともに浦添西海岸周辺エリアの将来像について検討を進めて参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
43	P.12-15	<p>「西海岸周辺エリアの現状」の把握について</p> <p>本項で考慮していることは、「交通アクセス」（空港、港湾、道路）、「地形」（平坦な地形、津波高潮による浸水想定区域があること）、「来訪者数」（国際通り、コンベンションセンター、北谷アメリカンビレッジ、海洋博公園との比較をめざす）、西海岸の自然環境、浦添の歴史である。上記の前半からは、那覇圏の海沿いならどこでも成り立つ条件しか出てこない。そして、国際通りなどの主要観光地の二番煎じのような開発が想起されてしまう。浦添西海岸の独自性、この地域の住民、この地域を今利用しここを愛している人びとの思いや願い、地域の自然環境や景観、文化資源を持続可能な状態で活用していくことをこそ掲げるべきだ。国際通り、コンベンションセンター、北谷アメリカンビレッジ、海洋博公園などに対抗して「沖縄を代表する新たな拠点」を作ろうとするのではなく、地域資源を保全し活かし、住民や入り込み客の要求を実現することからまちづくり、基本構想を出発させて、それが結果的に沖縄を代表する先進性を持つことを構想すべきである。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
44	P.26-29	<p>「プロジェクト1:自然環境の保全・活用・啓発プロジェクト」について</p> <p>「カーミーギー周辺におけるウォーターパーク開発構想」を掲げているが、ここは、自然環境・景観を保全すべき海域・沿岸域であり、カーミーギーは宗教的聖地でもある。ウォーターパーク開発は現状からの大規模な開発以外の何物でもなく、環境保全、持続可能性と両立しない。また、那覇港の埋立・軍港建設・道路造成による海の環境・景観破壊とウォーターパークは全く矛盾する計画である。那覇港の埋立・軍港建設・道路造成に市として反対しなければつじつまが合わない。</p>	<p>カーミーギー周辺のイノーが広がるエリアについては、自然的環境を保全する区域として、本基本構想においても自然環境の保全・活用を重視した計画を検討して参ります。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
45	P.30-33	<p>「プロジェクト2:海浜の適正な管理・利活用プロジェクト」</p> <p>「港川周辺における海浜公園整備構想」がなぜ「適正な」管理・利活用なのかが分からない。自然環境・景観を保全すべき海域・沿岸域において、なぜ、なぎさを観光に開発利用してしまう構想を立てるのか？ しかも、前項同様、このプロジェクトは、那覇港の埋立・軍港建設・道路造成による海の環境・景観破壊と全く矛盾する計画である。那覇港の埋立・軍港建設・道路造成に市として反対しなければつじつまが合わない。</p>	<p>港川周辺エリアについては、カーミージーの岩礁から自然の砂浜が形成されている自然資源の価値を踏まえ、海浜の適正な管理・利活用環境を整備することで、地域の方々をはじめ誰もが海と共に過ごし、学び、育てる場づくりを進める方向性を示すものです。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
46	P.34-37	<p>「プロジェクト3:海を活かした産業振興・育成プロジェクト」について</p> <p>「牧港漁港における漁業環境改善と海業育成に向けた再開発構想」を掲げるが、漁業振興は、まさに、埋立による海の環境破壊、軍港の米軍艦船・陸上軍事施設からの汚染物質の危険による漁業被害と矛盾する構想である。漁港の改良を図るならば、そもそも、漁業振興のために那覇港の埋立や軍港建設はすべきでない。</p>	<p>牧港漁港は、長年地域の水産業を支えてきた重要な拠点ですが、施設の老朽化や周辺環境の変化により、安全で持続可能な漁業運営の再構築が求められております。そこで、本基本構想では、「海を活かした産業振興・育成プロジェクト」として、牧港漁港における漁業環境の改善、付加価値向上に向けた取組み等の方向性を示し、今後、漁業者や関係団体と連携しながら具体的な内容を検討を進めて参ります。</p> <p>なお、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
47	P.38-40	<p>プロジェクト4:安全・安心環境の整備プロジェクト」について</p> <p>「西洲避難道路整備事業」が掲げられているが、なぜ、津波の避難路をわざわざ津波が遡上する川沿いに作るのか？ また、この避難路を使って避難する住民・入り込み客・労働者は、国道58号に達して終わりなのか？ 大津波の影響はまる1日かそれ以上も及ぶものである。その間、浸水域の居住・就労者をどこにどう収容するのか？ 川沿いに道路だけ作るというのは、いかにも無責任な、とってつけた計画ではないか。</p>	<p>本基本構想に位置付けている「西洲避難道路整備事業」は、想定される津波・高潮等の災害時に、浸水が想定される区域から国道58号線方面への避難経路および物資輸送経路を確保することを目的としており、標高や浸水想定範囲等を踏まえてルートを設定しているものです。</p> <p>なお、避難先となる施設のあり方等については、今後の防災計画や関係機関との協議の中で検討を進めていくこととしております。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
48	P.20-40	<p>プロジェクトとして掲げられていないことについて(1)</p> <p>キャンプキンザー返還が実現すれば、そこは近い将来では、那覇圏で唯一出現する広大な平地である。最初に、沖縄、那覇浦添圏に欠けている都市機能を、ここに持たせることが必要である。それは、質のよく安価な公営住宅や高齢者住宅・老人ホーム、障がい者施設、保育所・学校、災害避難拠点である。そのことを前提として、本基本構想を作り、プロジェクトを立ち上げるべきである。</p>	<p>キャンプキンザーの返還に関しては令和6年3月に策定した牧港補給地区跡地利用計画に基づき、返還に向けて具体的な検討を進めております。</p> <p>ご提案いただきました公営住宅や高齢者住宅・老人ホーム、障がい者施設、保育所・学校、災害避難拠点などの都市機能の導入につきましても、跡地利用における重要な視点の一つであると認識しており、今後、同計画の具体化や関連する検討を進める際の参考とさせていただきます。</p>
49	P.20-40	<p>プロジェクトとして掲げられていないことについて(2)</p> <p>産業拠点の形成については、「市内企業と連携し、沖縄の特性を活かした産業育成」と「研究機関を核とした企業誘致」を掲げている。</p> <p>しかし、市内にはどのような企業があるのか、「沖縄の特性を活かす」とあるが沖縄の他の場所でなく浦添でできることには何があるのか、といった、浦添の特性に着目した視点もプロジェクト案も皆無である。これでは、「浦添西海岸」における基本構想とは言えない。</p> <p>また、「研究機関を核とした企業誘致」というが、浦添市は、これまで教育研究機関と連携協定を結んだり、共同協力の事業を行った実績があるのか？ 県内の他の自治体にも、医療や研究の拠点形成を掲げた計画があったが、機関誘致は容易ではなかった。実績もなく、具体的な対象の絞り込みもないままの研究拠点案は空疎である。真に地場の産業を創生・発展させる政策を掲げ直すべきだ。</p>	<p>本基本構想では、牧港補給地区跡地利用計画との整合を図りつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像を検討する位置付けとしており、研究機関との連携や企業誘致の具体的な内容については、今後、地域産業の実情や市民ニーズを踏まえながら、関係機関と連携して検討して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
50	P.20-40	<p>プロジェクトとして掲げられていないことについて(3)</p> <p>浦添、宜野湾、北谷の海岸線一帯で、海浜の美しい景観や自然環境に心惹かれた入り込み客があり、それに対する産業が成立している。西海岸の入り込み客や住民はもちろん、サンエーパルコシティの賑わいや、宜野湾や北谷のビーチ利用客、また、冬場の沖合でのホエールウォッチング船、春などの潮干狩り、通年の釣りなどでの利用は、海浜の美しい景観や自然環境ゆえにあるのであって、これは地域の顕著な特色である。西海岸の地域資源の恩恵を受けて暮らしている、これら既存の利用者・利用形態をまもり、それとの両立を図る視点を、本基本構想案はどこにも記述していない。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
51	P.20-40	<p>プロジェクトとして掲げられていないことについて(4)</p> <p>浦添市にとって、キンザー跡地の利用計画は最大の都市計画プロジェクトであり、市の未来を左右する。キャンプキンザーを確実に返還させる政策、キンザー跡地を核にした西海岸の地域資源の価値を守る政策が欠かせない。ところが、那覇港の埋立、軍港建設は、それらに決定的な障害となるものである。埋立による海や沿岸の環境・景観の破壊・喪失、軍港による環境汚染・有事のリスク・重要土地法による区域指定など、事件事故の脅威など、軍港の影響はもっぱら否定的である。時あたかも、米軍のイラン攻撃においてイランの反攻は米軍基地を置く周辺国に向けられ、基地に近い民間地に相次いで被害が生じた。ドバイの超高級リゾートやアブダビ市街なども被弾している。これは、米軍基地のリスクを一目瞭然に実証する事例となった。これは西海岸地域にまさに当てはまる問題である。本基本構想案に、基地の否定的影響、港湾埋立・軍港建設の問題点に何の言及もないことは、基地の島沖縄の歴史の現実に目を背けるものであり、地方行政の責任を果たしていない。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画につきましては、那覇港全体の港湾機能や港湾空間の利用のあり方を定める計画であり、その策定・改訂は那覇港管理組合が行っているものです。浦添市西海岸周辺エリアはこの港湾計画の対象区域に含まれていることから、本市では、那覇港港湾計画や那覇港長期構想の内容を前提条件として踏まえつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像や市としてのまちづくりの方向性を検討するために本基本構想を作成しているところです。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
52	(記載なし)	<p>西海岸周辺エリア基本構想を見せて頂きましたが、軍港がなければ成立すると思えます。どの場所からも軍港が見えれば、興奮めしとてもリゾートを感じられるでしょうか。何よりもこのご時勢、子供達を安心して遊ばせられるでしょうか。そもそもカーミーグー周辺の拠点施設建設は令和2年に実施計画が完成。令和6年に土地を所有できているとの事。予算がないとのことで先送りされている。まずはここから取り組むべきではないでしょうか。今回の構想も、全体の予算がどこからの補助金で確保できるかもはっきりしないとの事。納税者が減少しているなか予算を確保できるのでしょうか。その前に新体育館建設の15億円の問題も十分に市民には納得出来る説明はなく、真相究明をしてから次の事業の構想を提示するべきではないでしょうか。市民の市政への不信を払拭して欲しいです。</p> <p>刻々と変わる国際情勢は資材、人件費等更に全てが高騰することが目に見えています。箱物は負の遺産にしかならないと思います。2060年には2人に1人が65歳の超高齢化社会の時代。今ソフトを整備しなければ、子供たちは未来に希望が持てないでしょう。超高齢者社会を考えることが先決だと思います。</p> <p>今までは埋め立てありきで経済を作ってきましたが、せめて西海岸は今の子供たちが成長してこの海をどうしたいのか。考えてもらう機会を与えたいです。</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
53	P.4	<p>背景・目的</p> <p>基地返還予定地の跡地利用ではなく、確実にキャンプ・キンザー返還させ浦添の発展を目指すのが道理なのではないか。</p> <p>賑わいの創出のために新たな土地利用で不明確な返還予定地に箱物をつくるのではなく今のままの市民の憩いの場である浦添市西海岸が良い。</p>	<p>本基本構想では、牧港補給地区跡地利用計画との整合を図りつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像を検討する位置付けとしており、研究機関との連携や企業誘致の具体的な内容については、今後、地域産業の実情や市民ニーズを踏まえながら、関係機関と連携して検討して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
54	P.5	<p>上位計画がありそれを元に市が何をやるかという説明かと思うのが、その上位計画にGW2050PROJECT推進協議会の意見がはいっているのは不自然。</p> <p>反対の構図であるべきだ</p> <p>そして下請けのような考え方ではなくて、西海岸周辺エリアの基本構想があり、市の方針があり、県の上位計画があるような現場発信の考え方でないと市民は納得いかない。</p> <p>矢印の向きが反対だと思うため、この計画は断固反対である。</p>	<p>本基本構想は、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画や第五次浦添市総合計画、牧港補給地区跡地利用計画などの上位・関連計画と整合を図りつつ、浦添西海岸周辺エリアの将来像を浦添市として検討するための「構想」として位置付けております。「GateWay2050 PROJECTS」についても、その一つとして広域的な動向との整合を図るべき関連計画として扱っているものであり、本基本構想は、浦添西海岸の地域資源や市民生活の実情を踏まえたうえで、エリアの方向性を検討するものです。</p> <p>次年度以降、本基本構想をたたき台として、市民の皆さまとともに浦添西海岸周辺エリアのあり方について検討を進めて参ります。</p>
55	P.9	<p>持続的発展を担う人材育成と記載があるが、「持続的発展」または「持続的成長」とは経済発展のみを意味している。P8の施策展開の基本方向の3.では「沖縄の特性を活かした持続可能な海洋島しょ圏の形成と記載があるため、公害等を出さない発展を意味しているが、P9にて「持続的発展を担う人材育成」と書かれているということは前述していることと矛盾が生じている。</p> <p>故に、この計画は信用性に欠けるだけでなく「持続的発展を担う人材育成」をするとなると様々な方向への影響を鑑みていると判断できる。</p>	<p>P8に掲載している「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）」は沖縄県が令和4年5月に策定した計画で、P9に掲載している「Gate Way 2050 PROJECTS 基本構想（案）」は、GW2050 PROJECTS 推進協議会が令和6年10月に公表したものです。</p> <p>本基本構想は、本市が策定主体となり、これらの既存の計画は上位・関連計画として掲載しつつ、浦添市の西海岸周辺エリアの方向性を定めて参ります。</p>
56	P.10	<p>米軍牧港補給地区の返還を見据えると記載があるが不明確すぎるだけでなく返還がされなかった場合はどうなるのか？あまりにも計画性のない不安材料が残る記述。</p>	<p>牧港補給地区の返還については、国道58号側の倉庫地区の大半を含む部分と言われるエリアが2025年度またはその後、海側の残余の部分と言われるエリアが2024年度またはその後とされています。ただし、現時点において明確な返還日は示されておりません。本基本構想では、関連する計画として、「牧港補給地区跡地利用計画」を紹介しております。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
57	P.11	<p>今までもそうだったが、那覇空港の近くにものをたくさんつ何か建築しても経済的発展効果はなくただ自然環境が壊されるだけだったため、このGateWay2050計画はうまくいかないと思えない。</p> <p>浦添自体が目的地にならないといけないため、空港からのアクセスがいいというだけでは発展しない。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
58	P.12	<p>道路ネットワークに国道58号が書いてあるが、これが理由ならば、このような計画のものつくらなくても発展しているまちである。</p>	<p>P.12の交通アクセスは、現状の1つの要素として紹介しております。</p> <p>本基本構想は、浦添市西海岸周辺エリアが、環境、観光、産業、交通、レクリエーション等あらゆる分野から高いポテンシャルを評価されており、様々なプロジェクトが進められていることから、そうした各プロジェクトを包括し、西海岸周辺エリア全体の目指す方向性を示すことで、そのポテンシャルを最大化するために策定するものです。</p>
59	P.13	<p>津波などによる被害ある地域にわざわざ費用をかけて建設する必要はない</p>	<p>本基本構想では、訪れる人・暮らす人が安全・安心で、豊かに過ごせるエリアづくりを重要な視点としてとらえており、西海岸ならではの美しい海や開放的な景観を生かしながら、防災性と快適性を両立した、エリアづくりの検討を進めて参ります。</p>
60	P.16	<p>視点1 地域資源を尊重し、活用すると記載があるが、地域資源を保全するという文言がないため、保全地域を開発してしまうと思うため反対である。視線環境を保全するならば開発は必要ない。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
61	P.16	<p>視点2 中南部を代表する拠点 アメリカビレッジやコンベンションなどと同じものをつくっても競合するだけで意味がない。浦添の自然を壊すだけ。</p>	<p>本基本構想では、沖縄の広域的な拠点を旨し、浦添の西海岸周辺エリアの特性を活かしたエリアづくりを推進します。 「古琉球・浦添リーフエリア」として、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化など浦添ならではの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。</p>
62	P.16	<p>視点3 研究・実証・事業化が連続的に展開されるイノベーション拠点の形成と記載があるが研究機関がこないという意味がないし、なぜ浦添で自然を壊してまでそれをやる必要があるのか。 OISTと包括協定などを結んでいないし、琉球大学も結んでいない。さらに病院とも連携していないなど今まで何もしていないのに浦添の地場の産業として発展するとは思えない。 調査する会社是那覇市や西原市くらいにしかないため、浦添まで来て調査や研究をするとは思えない。</p>	<p>本基本構想では、イノベーション拠点の考え方として、牧港補給地区跡地利用計画等との連携のもと、海洋環境の保全・啓発やブルーエコノミーの推進など、自然環境との共生を図りながら地域経済の自立的な発展に資する産業・研究・教育等の取組を段階的に検討していくための方向性を示しております。頂いたご意見を踏まえ、今後具体的な検討を進めて参ります。</p>
63	P.16	<p>視点4 普通の住宅街をつくるのか？何をつくるのか不明瞭なので説明して欲しい。 訪れる人と記載があるが、となるとホテルが立つのか。また浸水想定区域が含まれているエリアに何かを立てるようなイメージ図だが、健康で心豊かに過ごせる環境ではないと思う。市民のことも訪れる人のことも考えられていない無謀な内容。</p>	<p>視点4で示した「訪れる人・暮らす人が安全・安心で、豊かに過ごせるエリア」のイメージについては、具体的な住宅やホテルの建設内容を決定するものではなく、将来の土地利用の方向性を検討するための概略的なイメージとして示したものです。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
64	P.22,24	<p>西海岸周辺エリア枠内の3つを実施するように記載があるがP.24をみるとP.16の視点4の箇所については災害道路しかプロジェクトに入っていない。市民の安全を考えられていない。</p>	<p>西海岸周辺エリア基本構想では、「安全・安心環境の整備」を重要な視点の一つとして位置付けており、その具体的な取組の一つとして「西洲避難道路整備事業」をプロジェクトに掲げています。</p> <p>今回の素案段階では、災害時の避難経路・輸送路の確保を優先的なテーマとして位置付けたものであり、安全対策を災害道路の整備に限定する趣旨ではありません。今後は、防災計画や土地利用の検討とも連携しながら、避難施設のあり方や平時からの防災啓発なども含め、市民の皆様の安全・安心向上に資する取組について検討を深めて参ります。</p>
65	P.26	<p>水の流れも阻害されるし、デッキがあることで海中は暗くなるため生物多様性にとんだ海の生態系に影響がでてくる。持続的に作ってはいけない。海の環境を壊さないとあるがデッキやこのプロジェクトによって自然環境が壊れるとしか思えない。</p> <p>P27の写真はマングローブの環境に道をつくっているためそもそもイメージ写真が別の生態系を表している。珊瑚の上に道があっても珊瑚は守られない。</p> <p>渚から陸地にかけての生態系など無視されているため絶対に反対。</p> <p>自然保護するエリア一体のはずなのに、このようなものをつくるのは大変矛盾している。人だけが楽しい環境は必要なく、自然保護することが考えられていない計画だというのが明らか。断固反対する。</p>	<p>カーミージー周辺のイノーが広がるエリアについては、自然的環境を保全する区域として、本基本構想においても自然環境の保全・活用を重視した計画を検討して参ります。</p> <p>ご指摘のありましたデッキ等の整備による水の流れや生物多様性への影響については、重要なお意見として真摯に受け止めており、今後の基本計画の検討や具体的な施設配置・構造の検討にあたっては、専門家の知見も踏まえつつ、カーミージー周辺の海域環境に悪影響を及ぼさないよう十分配慮して参ります。</p>
66	P.31,32,33	<p>駐車場などのために埋め立てしたり、保全すべき場所に海の遊び場をつくるといった内容であるため反対する。体裁だけを考えて作成された資料であるのが火をみるよりも明らかである。</p>	<p>港川周辺エリアについては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを目的としており、本基本構想に示した内容は、具体的な埋め立てや海上デッキ等の整備を決定するものではなく、今後の検討の方向性を示すものです。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
67	P.40	<p>漁港を整備するのに海を埋め立てて、目の前の環境を破壊して漁港を整備するのは辺野古と同じ構想。</p> <p>漁師は結果、遠洋に行くための船を買うのに借金して、結果国に雇われて軍の監視船などをするはめに。それと同じことになるのが見て取れるため反対。</p>	<p>牧港漁港は、長年地域の水産業を支えてきた重要な拠点ですが、施設の老朽化や周辺環境の変化により、安全で持続可能な漁業運営の再構築が求められております。そこで、本基本構想では、「海を活かした産業振興・育成プロジェクト」として、牧港漁港における漁業環境の改善、付加価値向上に向けた取組み等の方向性を示し、今後、漁業者や関係団体と連携しながら具体的な内容を検討を進めて参ります。</p> <p>なお、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
68	P.38-40	<p>災害等に備えた道路、輸送路と書いてあるが川が近くに流れているため全く安全な道とは限らないため意味のない道路整備である。河の氾濫を予測した内容となっていないため断固反対である。</p> <p>川沿いの標高が高い道に避難路つくる計画となっているが人の命を救うつもりがない。</p>	<p>本基本構想に位置付けている「西洲避難道路整備事業」は、想定される津波・高潮等の災害時に、浸水が想定される区域から国道58号線方面への避難経路および物資輸送経路を確保することを目的としており、標高や浸水想定範囲等を踏まえてルートを設定しているものです。</p> <p>なお、避難先となる施設のあり方等については、今後の防災計画や関係機関との協議の中で検討を進めていくこととしております。</p>
69	(記載なし)	<p>ホエールウォッチング船が実際に今もあるが、軍港つくって長い時間かけて海岸に大きな音をだす工事をして・・・となるとクジラも他の生物も寄りつかない砂浜になるので白紙に戻して欲しい。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
70	(記載なし)	<p>金銭的に見えるものは数えやすいから発展しているが見えるが金銭的に計算できない満足感が高層ビル群に盗まれている。心の豊かさ、ウェルネスが減っている。</p> <p>高層ビルで儲かるのは地主だけ、その周りの住民は心の豊かさが奪われている。トラックに挟まれて渋滞を抜けたときに広がる海のパノラマが浦添の海岸のいいところなのに、それがなくなるような計画は市民のことも浦添市のことも、沖縄のことも考えていない計画である。</p> <p>浦添のそのままが沖縄らしい、浦添らしさである。</p> <p>海の回りを建築物で埋めてしまう構想&埋め立てで汚す構想は沖縄らしいとは言えない</p> <p>沖縄とは何かを今一度考えて欲しい。</p> <p>不明確であり解像度が低い計画を推し進めるのは、浦添西海岸の自然環境破壊だけではなく市民の憩いの場がなくなり、反対に浦添に住みづらくなってしまう計画のためGateWay2050は断固反対する。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。</p> <p>牧港補給地区跡地利用計画やGateWay2050 PROJECTSなどの関連計画における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、経済的な側面だけでなく、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値に配慮しながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
71	(記載なし)	<p>本基本構想と上位計画であるGW2050と軍港移設が浦添西海岸周辺エリアに集中しているため、どこまでが浦添市の事業なのか、何が一番やりたいのかが伝わってこない。</p> <p>特に牧港補給地区沿岸部賑わいエリアを成功させたいなら、海側の交流賑わい空間及び那覇軍港の埋め立てそれに付随する防波堤建設は中止しなくてはならない。</p> <p>本基本構想の成否が掛かっていることを政府に説き理解を得るのが先である。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用する方針を整理して示したものです。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
72	(記載なし)	<p>浦添西海岸の一番の魅力は、空港からのアクセスの良さもあるが曙でのトレーに挟まれての渋滞と言うストレスフルな状態を抜けたとたん眼前に開ける青い海と空、このギャップからくる解放感である。これは他の何処にもない、守り引き継いでゆくべき宝である。</p> <p>本事業を行うことで沖縄の経済発展を目指しておられるようだが、経済にはお金に換算できない満足感や幸福感と言った市民側の余剰がある。これを無視して開発を行っても無限大の機会費用を払い続けることになってしまう。</p> <p>本事業を進めている人たちはパルコ前の海の価値を正しく理解していないと思われる。</p> <p>広い海に沈む夕日は心を洗うエルピーイングに役立っている。また、干潮時にはスニーカーを濡らさずにタイドプールの生き物を観察でき、五分もせず、塊状浜サンゴのマイクロアトールをいくつも発見できるのである。</p> <p>この海域は絶対に埋めてはならない。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。</p> <p>牧港補給地区跡地利用計画やGateWay2050 PROJECTSなどの関連計画における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、経済的な側面だけでなく、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値に配慮しながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
73	(記載なし)	<p>軍港アセスのあらましでは、自然を保護する区域はカーミージー橋より沖が指定されているが、カーミージー周辺のウォーターパーク構想では橋の陸側も保護するエリアとなっている。この齟齬は何なのか。当然、軍港計画の方が上位計画なので、浦添市が思うような開発はできないのではないかと。回答を求める。</p> <p>カーミージー橋の下をくぐれば、軍港から直接キンザーへつながる。軍港付帯施設の橋梁の設計が曖昧だったため、防衛施設局へ問い合わせたところ否定されなかった。</p> <p>返還計画では25年またはその後となっていたと思うが帰ってこない可能性が大きい。</p> <p>リゾートエリアを開発する権利をトランプリゾートに与えるなど、返還を確実なものにする手立てが必要だ。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
74	(記載なし)	<p>港川周辺エリアもビーチをメインとして計画されているが、カーミージーはカーミージー御嶽と言う神聖な場である。</p> <p>浦添は琉球市の曙ともいえる王都の歴史が始まった地と謳われている。浦添城、ようどれ等古琉球をテーマに祈りの文化を伝える周遊ルートを企画するべきと考える。</p> <p>せーふぁ御嶽が観光地化されすぎ批判を浴びた轍を踏むべきではない。</p> <p>観光の高付加価値化を図り、顧客層を富裕層としているが、目先のお金に囚われて、私たち市民県民をクラウドアウトするのは本末転倒である。</p> <p>浦添市は、市民県民のウエルビーイングを高めることを第一に構想を進めることを、重ねてお願いするものである。</p>	<p>本基本構想では、浦添に王府が置かれていた歴史（古琉球）と、カーミージーをはじめとするサンゴ礁（リーフ）に代表される海の自然環境を重視し、「古琉球・浦添リーフエリア」の実現をコンセプトに掲げました。</p> <p>港川周辺エリアについては、カーミージーの岩礁から自然の砂浜が形成されている自然資源の価値を踏まえ、海浜の適正な管理・利活用環境を整備することで、地域の方々をはじめ誰もが海と共に過ごし、学び、育てる場づくりを進める方向性を示しており、今後、頂いたご意見を踏まえ、具体的な取組み内容の検討を進めて参ります。</p>
75	(記載なし)	<p>浦添西海岸の埋め立て中止を希望します。</p> <p>環境の保全が最優先です。一度失われたものは取り返せません。イノーは変えが効きません。次世代に残すべきは、このような自然です。</p> <p>また、気候変動を食い止めるには、海を含む保護区を増やして行く必要があります。世界でも30 by 30といった目標があります。この素案は、それに逆行するものです。将来世代に対してあまりにも無責任です。</p> <p>計画の見直しを熱望します。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
76	P.4,24, 27	<p>那覇市民ではあるが、浦添西海岸の景色を見てその美しさに感動し、そこを埋め立ててほしくない沖縄県民の一人として意見を提出する。</p> <p>P.24「プロジェクト1:自然環境の保全・活用・啓発プロジェクト～カーミージー周辺におけるウォーターパーク開発構想～」について</p> <p>「自然環境の保全」とあるが、P.27のプロジェクトの実現に向けて検討する取組みで「海上交通拠点を整備」、「マリーナの整備」、「駐車場」の整備など、海洋環境を壊しかねない開発が書かれているのは矛盾している。自然環境の専門家の意見が取り入れられているとは思えないため、専門家の意見を取り入れたものに修正すべき。</p> <p>P.24「プロジェクト3:海を活かした産業振興・育成プロジェクト～牧港漁港における漁業環境改善と海業育成に向けた再開発構想～」について</p> <p>牧港補給地区(キャンプ・キンザー)が仮に返還されるにしても、北部訓練場の米軍廃棄物や普天間飛行場周辺のPFAS問題でもあるように、軍事施設及びその周辺には汚染物質があり、除染作業にも相当な期間がかかるとみられる。その周辺で水揚げされた海産物等を購入したい、飲食したいと思う人がどれだけいるのか疑問である。軍事施設による汚染等、過去の事例も調査したうえでの見直しを求める。</p> <p>そもそも、P.4にあるとおり「浦添市の西海岸は、イノーと呼ばれる遠浅の海が広がり、夕日を望む風光明媚な場所として、人々に親しまれて」きたのであるから、その自然環境を破壊する埋立て・開発等はすべきではない。</p>	<p>本基本構想における「プロジェクト1」「プロジェクト3」に記載している内容は、現時点で具体的な事業実施を決定するものではなく、自然環境の保全・活用や海を活かした産業振興の方向性について、今後の検討テーマを整理したものです。カーミージー周辺のイノーについては、自然的環境を保全すべき区域として位置付けられており、今後、具体的な検討を進める際に、頂いたご意見を踏まえ、海上交通拠点や駐車場等を含む具体的な施設整備において環境に十分配慮した検討を進めて参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
77	P.12,20	<p>臨港道路の写真を利用されていましたね。同様の写真を目にするたびに浦添西海岸のすばらしさを思います。海はこのままで良いではないですか。浦添市としてキンザー返還を強く訴えてください。返還後は交通インフラの整備を重点的にお願いします。西海岸から屋富祖通りを繋ぐ道路を建設してください。ナイトスポットとして、新しく健全な屋富祖通りを作る計画を立ててください。素案のコンセプトはとても素晴らしいものだと思いますが、少子高齢化が急速に進むこれからの時代に果たして遂行できるのでしょうか。今でもどこもかしこも人手が足りないではありませんか。</p> <p>GW2050で、那覇市・宜野湾市とともに開発を進めていくんですね。宜野湾市もマリナを再開発したいようですね。浦添市にマリナが必要ですか。人手が集められるんですか。行政が壮大な計画を立てそれが実る時代だとは思えません。キンザーを返還させ計画的な交通インフラの整備、本当にまずはこれを勝ち取るべきだと思います。</p> <p>P.20に「美しい自然環境があるからこそ世界中から優秀な研究者や企業が集まる」とあります。西海岸は今が一番美しいです。今その優秀な研究者や企業が集まってきていますか。</p> <p>来るかどうか分からない世界中の研究者に夢を馳せる前に、行政のリソースを、今、市民に浦添の子供たちに割いてください。</p>	<p>本基本構想は、P.6に示す本市の西海岸周辺エリアを対象として、上位計画委や関連計画・各プロジェクトの考え方を踏まえつつ、中長期的な視点から魅力ある西海岸周辺エリアの将来像を描くものです。</p> <p>環境、観光、産業、交通、レクリエーション等あらゆる分野から高いポテンシャルを評価されており、「自然環境の保全・活用」、「新たな産業」、「国際交流・リゾート」を3つの柱とした将来像を掲げております。</p> <p>なお、牧港補給地区の返還については、国道58号側の倉庫地区の大半を含む部分と言われるエリアが2025年度またはその後、海側の残余の部分と言われるエリアが2024年度またはその後とされています。ただし、現時点において明確な返還日は示されておりません。</p>
78	(記載なし)	<p>浦添海岸の美しさ、生物の多様性、地元の皆さまが大事に思っている場所だといったことを知る機会に恵まれました。こんな貴重な場所を埋め立てて、開発するなんて考えられないです。どうかこの素晴らしい海を守ってください。ありのままの美しさはかけがえのないものです。いつか訪れたいと思っている私の夢を壊さないでください。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用する方針を整理して示したものです。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
79	P.32	<p>プロジェクト2：海浜に適正な管理。利活用プロジェクトについてホテル営業視点からご意見させていただきます。</p> <p>①弊ホテルから海浜地区へのアクセス（道路）に歩道の設置が無く（狭く）、準工業地域からの大型車輛の交通量から同アクセスを考慮すると非常に危険であると感じます。</p>	<p>港川周辺エリアについては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを目的としており、本基本構想に示した内容は、今後の検討の方向性を示すものです。ご指摘のありました、周辺拠点から海浜までのアクセスにおける歩道の未整備や大型車両との交通安全面の課題につきましても、今後の基本計画の策定にあたって、安全性の確保の観点から参考とさせていただきます。</p>
80	P.32	<p>プロジェクト2：海浜に適正な管理。利活用プロジェクトについてホテル営業視点からご意見させていただきます。</p> <p>②海浜地区カーミージー周辺に関しては、沖縄本島で数少ない自然が残ったビーチエリアになりますので、子供、親子連れの自然観察には最適場所になります、港川地区で行っている自然観察会を定期的で開催出来れば観光客の参加も可能と思われれます。観光と地域との繋がりにも繋がると思いますので、定期化出来れば商品化したいと考えてます。</p>	<p>港川周辺エリアについては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを目的としており、本基本構想に示した内容は、今後の検討の方向性を示すものです。今後の基本計画の検討にあたっては、こうした自然観察会の定期開催や観光客の参加のあり方についても、関係事業者や地域の皆様と連携しながら、具体的な取組内容を検討して参ります。</p>
81	P.32	<p>プロジェクト2：海浜に適正な管理。利活用プロジェクトについてホテル営業視点からご意見させていただきます。</p> <p>③マリンレジャーの拠点が出来れば観光客への誘客には効果的だと思います。近隣の宜野湾、北谷地区にあるようなビーチ施設以外にも観光客の移動手段である駐車場、温水シャワー設置もお願いします。また、ビーチ管理には清掃以外に毎年砂の補充が必要になりますので、予算確保も宜しくお願い致します。</p>	<p>港川周辺エリアについては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを目的としており、本基本構想に示した内容は、今後の検討の方向性を示すものです。頂いたご意見は、今後策定する基本計画において、マリンレジャーの拠点の位置付けや必要な施設・維持管理体制のあり方を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
82	P.4	<p>「浦添市のみならず、沖縄県中南部における貴重な海浜であり、」と認識しているのに埋め立てを前提として軍港を作るとか意味不明です。</p> <p>軍港を作れば軍艦が常に停泊します。軍艦の底にフジツボなど付かないように強い薬品や洗剤を使うため、海が汚染され泳ぐことが出来なくなります。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
83	P.25,26,29,30	<p>軍港はもちろん不要だと思うのだが、他にも海にあれこれ作らずに、自然の海を活かしてほしいです。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
84	P.8	<p>「SDGsの考え方を踏まえ」とあるが、本素案は、以下のSDGs目標に反する。</p> <p>目標 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する →軍港で海が汚染され健康被害に繋がる。</p> <p>目標 6 すべての人々に水と衛生へのアクセスを確保する →海の水が汚染される。</p> <p>目標 11 都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする →農地の計画がなく食料自給の概念がなく持続可能性のないまちづくり。</p> <p>目標 14 海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する →埋め立てる時点で反してる。</p> <p>目標 16 公正、平和かつ包摂的な社会を推進する →軍港を前提にしてる時点で暴力的。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
85	構想の全体	<p>こんにちは、日々のお仕事に敬意を表します。</p> <p>浦添西海岸についてのパブリックコメントに意見を申し上げたいと思います。ご承知の通り浦添西海岸一帯は、中南部地域で比較的自然が残されてるところでもあります。近年は海岸線の埋め立てが進み、自然の海岸線が少なくなってきました。その中で、浦添西海岸は平日でも市民が釣りを楽しんだり、子供たちが水遊びをしたりする市民の憩いの場でもあります。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
86	構想の全体	<p>カーミージー周辺は自然環境の保全・活用・啓発プロジェクトとして予定されていますがぜひともその地域を拡大し、市民が憩える場所を広げてほしいと思います。また、その西側沖合に那覇港港湾施設代替施設49haが予定されていますが、その場所に作られると海流が変わり自然環境の保全エリアにも影響を与えます。さらにそこは平日でも市民が釣りを楽しんだり、潮干狩りを楽しんだりする場所でもあります。シャコ貝等も多く生息しています。その場所を軍港で潰すというのは非常にもったいない話です。そもそも那覇軍港はほとんど使われておらず、米軍は安謝港で陸揚げ作業をしています。さらに弾薬は天願さん橋、兵士や車両はホワイトビーチを使用しています。米軍のためにこの豊かな海を潰す必要はありません。キンザーも返還されます。ぜひこの西海岸一帯を市民が自然を楽しむ場所にしてほしいです。</p> <p>沖合の堤防近くにはサンゴが生息しています。ホテル建設も予定されており、将来観光客が船でサンゴを観察できる場所でもあります。新たな堤防建設や米軍の埠頭を作ると海流が変化しサンゴにも重大な影響を与えます。松本市長にはぜひ国・県・防衛局に軍港はいらないとはっきり提案・意見していただきたいと思います。浦添に負の遺産である軍事施設はいりません。米軍施設からのPFOA等の汚染物質の排出も心配です。浦添市の将来にも子や孫たちのために軍事施設は必要ありません。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>

No.	素案該当 ページ	ご意見	回答
87	構想の 全体	物流空間の区域も縮小していただけると尚幸いです。	那覇港港湾計画につきましては、那覇港全体の港湾機能や港湾空間の利用のあり方を定める計画であり、その策定・改訂は那覇港管理組合が行っているものです。浦添市西海岸周辺エリアはこの港湾計画の対象区域に含まれていることから、本市では、那覇港港湾計画や那覇港長期構想の内容を前提条件として踏まえつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像や市としてのまちづくりの方向性を検討するために本基本構想を作成しているところです。

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
88	(記載なし)	<p>この西海岸開発計画を真剣に実現させようと思うのであれば、軍港移設反対は必須だと思いました。那覇軍港には、貨物積み卸し、船舶修理、給油所などの施設が存在しており、これらに伴う化学物質や油の流出が懸念されています。この海域で、安全に遊ぶことができるのでしょうか？今の時期、この海域ではホウエールウォッチングができるほど、クジラが集まります。先日には知人がウミガメを確認しています。4kmを越す防波堤が存在する隣の海域の「自然保護地域」が成り立つのか、その検証が全く不十分です。上位計画に引きずられて、浦添市独自の発想が見えません。</p> <p>現在でも夕陽は沖合の防波堤にかかっています。ご存じとは思いますが、かつて琉球の時代、小湾集落には王府の別荘が4つありました。慶良間を望むこの海が、どれほど美しい風雅な場所であったかの証明です。沖縄が沖縄であるために必要なイノーを破壊して、作り物のアクアリウムよりも、自然のまま残して親しむことの方が、どれほど感性に働きかけるでしょう。</p> <p>作り物に満足する時代は終わりました。この海をこのままにして生きる方法を考える、貴重な実験場になることを期待して、浦添市の可能性を示すことが必要です。ていだの町として歴史の誇りの特性を示してほしいです。</p> <p>高度成長期と違って人々が求めるものは、近代的な人工物ではなく、ありのままの自然へと変化しているのではないのでしょうか。自然に近づけようとどんなに工夫をしても、作り物は作り物でしかありません。基地は返還させればいいですが、破壊された海をもとに戻すことは不可能です。</p> <p>人の集まる拠点とするなら、沖縄に残された「奇跡の海」を前面に押し出し、南部ではここにしかない自然海岸として、浦添市の宝になるのではないのでしょうか。</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p> <p>那覇港湾計画に位置付けられている自然的環境を保全する区域については、本基本構想においてもその趣旨を踏まえ、カーミージー周辺のイノーなど貴重な自然環境の保全と適切な活用を図ることを基本的な考え方としており、今後の具体的な検討においても環境への影響を最小限とするよう十分配慮して参ります。</p>
89	(記載なし)	<p>そもそも沖縄の海の自然環境を壊してまで埋め立てをする必要はないと思う。大きな津波・地震が起こった場合地盤は沈下し液状化が考えられる。津波の場合はそもそも全部流され壊されて壊滅状態になるのでは？</p> <p>今の環境を壊すことは良いと思わない</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
90	P.10	埋め立て計画がある時点でこの構想案はすべて台無しになっている。合理的に説明できるのか？軍港を眺めながら親子で平和を語るとかどんな教育だろう？	軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。
91	P.26- P.29	<p>「3 西海岸周辺エリアの目指す方向性・将来像」は良いとしても、そこからなぜプロジェクト1はこうなるのか？</p> <p>まず、ウォーターパークではなく臨海公園と最低でも日本語、沖縄語があるならそちらを採用すること。</p> <p>AI画像となっているが、海の上に構造物を作る指示をしてる時点で受け入れられない。潮が引けば歩ける所に不要。潮が満ちてる時に観察したければサバニを出す方が文化的だ。</p> <p>P.29は最悪です。海岸沿いのデッキも要らないし、プールや遊具も要らない。こんなものを経験して大人になってろくなことがない。</p>	本基本構想におけるプロジェクト1は、西海岸周辺エリアの目指す方向性・将来像を踏まえつつ、自然環境の保全・活用や環境学習の可能性を検討するための素案として示したものであり、ウォーターパークという名称や、AIで生成したコンセプトイメージに示した海上構造物・デッキ・プール等の整備をこのまま実施することを決定したものではありません。
92	P.30- 33	<p>こちらAI画像が気持ち悪すぎる。</p> <p>来訪者が来やすいように陸上部分を整備することや海上交通のために陸上部分を整備して環境を作ることは良いが、P.30やP.33のような海上を不要なデッキや構造物を置くことは絶対にやめて下さい。環境と文化の破壊でしかない。琉球の風景ではないでしょう。</p>	港川周辺エリアについては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを目的としており、本基本構想に示した内容は、具体的な埋立てや海上デッキ等の整備を決定するものではなく、今後の検討の方向性を示すものです。
93	P.5	牧港で育ちました。海の生態系を守る視点で海はそのまま残して貰いたいです。軍港への移行のための開発には反対です。	軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
94	P.16	観光資源として利用価値を高めるため、また自然的環境を保全する区域として位置づけられている地域であれば従来通り埋め立てをせずこのまま残すべき	軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。
95	(記載なし)	浦添市西海岸は埋め立てずに海岸公園にすべきと考えております。今後は自然を活かした開発が大切	軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。
96	(記載なし)	開発に反対する	反対のご意見をいただいていることにつきましては、真摯に受け止め、引き続き、説明会の開催や地域住民の方々のご意見を伺う場を通じて地域の皆様のご理解を得られるよう努めながら、具体的な取組み内容の検討を進めて参ります。
97	P.10,1 1	埋立ての必要性が不明 P11では新たな埋立てを含む港湾空間の再編が示されていますが、P10に示されている牧港補給地区跡地など陸域の活用との比較検討が示されていません。 海域埋立ては不可逆的な環境影響を伴うため、陸域利用による代替可能性を十分に検討したうえで必要性を明確にすべきです。	軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。
98	P.13	気候変動・高潮リスクと矛盾 P13では本エリアが津波・高潮浸水想定区域に含まれることが示されています。 気候変動により高潮・海面上昇リスクが増大する中で、沿岸部の新規開発を進めることについて長期的な防災コストや安全性評価を示す必要があります。	本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。 訪れる人・暮らす人が安全・安心で、豊かに過ごせるエリアづくりを重要な視点としてとらえており、西海岸ならではの美しい海や開放的な景観を生かしながら、防災性と快適性を両立した、エリアづくりの検討を進めて参ります。

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
99	P.15,1 6	<p>自然保全と開発の矛盾</p> <p>P15ではサンゴ礁や岩礁など貴重な自然環境が存在することが示されています。またP16では海洋環境が失われつつあると指摘されています。</p> <p>そのような状況において新たな海域改変を伴う開発を進めることについて、自然環境保全との整合性をより明確に示す必要があります。</p> <p>繰り返しになりますが、牧港補給地区の広大な返還跡地の活用が予定されている中で、海域の埋立てを前提とした開発の必要性について十分な説明が示されていないと考えます。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>
100	P.20	<p>経済効果の根拠が不明</p> <p>P20では新たな産業拠点形成による経済効果が示されていますが、需要予測や投資規模などの具体的な根拠が示されていません。</p> <p>長期的な財政負担を含めた検証が必要と考えます。</p>	<p>本基本構想において示している経済効果は、将来像の実現により期待する波及効果として示しているものであり、現時点で需要予測や投資規模を伴う詳細な試算を示したものではありません。今後、個別の事業内容や施設整備の具体的な検討を行い、その内容に基づいて具体的な根拠となる試算を行い、さらに検討を進めていくこととなります。</p>
101	(記載なし)	<p>米軍のための新しい基地の建設、貴重な自然を破壊する行為には絶対反対です！</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
102	(記載なし)	<p>浦添西海岸の埋め立てを前提とした基本構想には反対します。</p> <p>沖縄の貴重な海と自然環境を破壊する埋め立ては行うべきではありません。</p> <p>米軍基地の負担を長年背負ってきた沖縄に対し、これ以上の環境負担を押し付ける開発ではなく、自然環境と県民の暮らしを守ることを最優先に検討することを求めます。</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
103	P.9	<p>GW2050はもはや、民間主導ではなく、玉城沖縄県政の転覆をねらう政府・自民党主導になっている、組すべきでない。GW2050 PROJECTSは2023年段階では、確かに民間主導で、沖縄県にも（那覇空港、那覇軍港、牧港補給基地で）提言、普天間基地は含まれていなかった。しかし、2024年自民党の沖縄振興協議会が政府に提言後、政府の骨太方針で初めて普天間基地が含まれた。その後GW2050 PROJECTS推進委員会が急速に作られ、国からの補助金もジャブジャブ降りるようになった。浦添市長が、市議会の議論もなく、突然理事になったのも、政府のごり押しがあったからではないか。普天間基地が返還されないかぎり、GW2050は実現できない。辺野古に反対する知事は降ろして、賛成する知事に変えていこう、みたいなストーリーがつくられつつあると思います。浦添市の自治を踏みにじるGW2050 PROJECTSには協力すべきではない。</p>	<p>「GateWay2050 PROJECTS」につきましては、那覇空港・那覇港・牧港補給地区などを含む広域の将来像を検討する構想として、関係機関や民間事業者等により議論が進められているものです。浦添市におきましては、その中で牧港補給地区や西海岸周辺エリアが関係することから、関連計画の一つとして位置付けております。</p> <p>こうした上位・関連計画を踏まえつつ、次年度以降は、本基本構想をたたき台としながら、市民の皆様とともに浦添西海岸周辺エリアの将来像について検討を進めて参ります。</p>
104	P.10	<p>コンセプトの「スマート・イノベーションシティ」が怪しげである。浦西駅周辺開発のスマートシティが壮大な失敗を迎えつつある今日、松本市政にこの事業を進めさせてはいけなく考える。田舎の小都市らしく、市民サービスに徹すべし。</p>	<p>本基本構想では、牧港補給地区跡地利用計画との整合を図りつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像を検討する位置付けとしており、研究機関との連携や企業誘致の具体的な内容については、今後、地域産業の実情や市民ニーズを踏まえながら、関係機関と連携して検討して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
105	(記載なし)	<p>西海岸開発は反対致します！ 沖縄の海を汚す、開発ダメです！</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
106	P.26-.38	<p>海を4.5kmもの堤防で遮断、基地49ha+にぎわいの大規模な埋め立てを行えば、海は完全に死滅、こんなブルーの色にはなりません。濃緑のヘドロ色の海になりますので、うその絵で印象操作するのではなく、正しい色でイメージ図を描きなおしてください。また、道路には軍事車両、海には軍艦がいるので、うそ偽りのイメージ図は直ちに差し替えて下さい。ヘドロ色の海にこんな人が集まるとも到底思えません。また、浦添西海岸沖はザトウクジラの通過経路であり、長期間にわたる工事の影響で、那覇など沖縄本島からのホエールウォッチング、また慶良間諸島でのホエールウォッチングにも影響が出て、最悪経路が変わり着工後はクジラも見られなくなる可能性もあります。その際の保証は浦添市で支払うのでしょうか？またどのくらいの予算を見込んでいるのでしょうか？</p>	<p>軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>
107	(記載なし)	<p>市民のためというよりは、観光客がより楽しめるための施設を作りたいという印象です。物価高で生活が苦しい市民は大勢いると思います。市民の生活の底上げのためにお金を使うべきだと考えます。</p>	<p>本基本構想は、P.20,21に示す通り、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方とし、期待される波及効果として、「市民・県民の生活が豊かになること」、「浦添市・沖縄県のビジネスの活性化」、「沖縄県の自立した経済発展」を目指しております。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
108	P.11	<p>民港ふ頭、交流賑わい空間のための埋め立てすべきではない。あの臨海道路のための埋め立てにもかかわらず、砂や植物の種が沖から押し寄せて、自然の砂浜が復元しつつある。これを再び埋め立ててしまうのか。「古琉球・浦添リーフエリア」のタイトルが泣いています。「交流賑わい空間」のコンセプトが危なっかしい。パルコシティの誘致に苦労したではないか。そのために、子育て支援センターを入居させなければならず、大赤字を生み出し、それ以外の子育て支援センターをすべて廃止して、子育て世代に迷惑をかけている。埋め立てやめよ。松本市政がどれだけ市財政の損害を与えるか大いに不安である。</p>	<p>那覇港港湾計画につきましては、那覇港全体の港湾機能や港湾空間の利用のあり方を定める計画であり、その策定・改訂是那覇港管理組合が行っているものです。浦添市西海岸周辺エリアはこの港湾計画の対象区域に含まれていることから、本市では、那覇港港湾計画や那覇港長期構想の内容を前提条件として踏まえつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像や市としてのまちづくりの方向性を検討するために本基本構想を作成しているところです。</p>
109	<p>構想の全 体,P.1 9-33</p>	<p>構想のベースにある「開発ありき」の発想に問題がある。</p> <p>まずはなぜこの構想に至ったか、現状の海岸・海域を保全する形では立ち行かないのかという説明がまったく不十分である。自然環境や文化的意味合いのあるスポットは今や貴重な財産。将来世代につなぐべき責任がある。</p> <p>地球温暖化による自然保護の危機に直面し、行政には基本的には現状の保全を第一とし、防災上などのやむを得ぬ理由があれば最小限の範囲で現状に手を加えることは許されるが、単なる産業振興や賑わい創出は貴重な地域の財産の破壊を伴う理由にはならない。</p> <p>差し迫った理由に関する納得いく説明がない以上、当基本構想自体に反対と言わざるを得ない。産業振興ならば、やがて変換されるキャンプキンザの58号線側の計画を住民とともに立てるのがスジであろう。</p> <p>浦添西海岸の当該スポットは浦添市並びに浦添市民だけでなく、沖縄島に住む人々（私は那覇から沖縄市に帰る途中に浦添西海岸に立ち寄ることがある）、訪れる人々、そしてまだ見ぬ将来世代のものである。その人々を考えた構想となっているのかあらためて考えなおしてほしい。今の経済界や短期的な振興といった狭い範囲での構想はゼロから見直すべきと考える。</p> <p>ぜひ、子や孫が沖縄をいつくしむその情景を思い描き、もっと開かれた人々による構想づくりに取り組んでほしい。私は、あなたは、沖縄に何を残せるか。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
110	P.28	市民が気軽に楽しめるように、（平服、ハイヒール）でもあるけるような、ボードウォークはアイデアかと思います。干潟は転ぶと大変危険で、カーミージー周辺の丸岩すべりやすく、かなり危なっかしい。本土の湿原にあるような木道などあればと思います。AIイメージは無責任すぎるのではないのでしょうか。観光よりも市民サービス優先で考えてほしい。もちろん、すぐ近くにアメリカの軍港の建設など認めるべきではありません。	カーミージー周辺のイノーが広がるエリアにつきましては、すべりやすい岩場や干潟での転倒の危険性などについてのご指摘も踏まえ、今後、安全面への配慮、自然環境の保全を重視し、ボードウォーク等の市民のみなさまがカーミージーの自然環境を活用できる環境の整備を具体的に検討して参ります。 また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。
111	P.30	海浜公園は港川の住民の里浜活動主体で、モーターボートなど入らないように。	港川周辺エリアについては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを目的としており、本基本構想に示した内容は、具体的な埋立てや海上デッキ等の整備を決定するものではなく、今後の検討の方向性を示すものです。

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
112	P.25- P.26	<p>浦添西海岸エリア基本構想について、本計画は浦添市の将来の都市構造や海岸環境に長期的な影響を与える重要な計画であることから、埋め立てを前提とした開発については慎重な再検討が必要であると考えます。</p> <p>まず、本エリアの隣接地には那覇軍港の移設が予定されており、軍港という特殊な港湾施設と都市的な土地利用をどのように調和させていくのかについて、より具体的な検証が必要ではないでしょうか。軍港は安全管理や利用制限、騒音など一定の制約を伴う施設であり、商業・観光機能を中心とした新たなまちづくりとの相互関係については、将来の土地利用や地域価値・ブランド力に与える影響を長期的な視点で検討することが求められます。</p> <p>また、埋め立てによって失われる海そのものの価値についても、十分な評価が必要です。沖縄県において観光産業は基幹産業であり、観光収入は年間約7,000億円規模に達しています。その魅力の中心にあるのは、沖縄ならではの美しい海と自然景観です。近年は世界的にも、自然環境を活かした観光や地域体験型の観光の価値が高まっており、海岸景観や自然環境そのものが地域の持続的な経済資産として評価されています。</p> <p>埋め立てによる土地造成は短期的な開発効果を生む可能性がある一方で、沖縄ならではの自然資源を失うこととなります。一度埋め立てられた海は元に戻すことができません。したがって、開発による経済効果だけでなく、海岸景観の喪失による観光価値の低下や環境価値の減少なども含めた、総合的な費用対効果の検証が必要であると考えます。</p> <p>さらに、浦添西海岸は浦添市民だけでなく、那覇市民を含む多くの県民にとって身近な海辺の空間であり、散策やレクリエーション、景観を楽しむ場として親しまれてきました。このような公共的価値の高い海岸空間については、埋め立てによる開発だけでなく、既存の自然環境を活かした利活用の可能性についても検討することが望ましいと考えます。例えば、自然海岸の保全と観光・交流機能を両立させるウォーターフロント整備やエコツーリズム型の活用など、環境と地域経済の双方に資する選択肢も考えられるのではないのでしょうか。</p> <p>以上の点から、浦添西海岸エリアの将来像については、埋め立てを前提とした計画だけでなく、海岸環境の保全と持続的な地域経済の発展を両立させる観点から複数の代替案を比較検討し、十分な情報公開と市民参加のもとで議論を深めていただくことを強く求めます。将来世代にとっても価値のある西海岸のあり方を慎重に検討されることを期待します。</p>	<p>本基本構想では、「美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり」をエリアづくりの重要な視点のひとつとして掲げており、自然環境の保全・活用により、訪れる人・暮らす人が西海岸に広がる美しい海に再び目を向ける拠点形成を目指しています。</p> <p>また、軍港（那覇港湾代替施設）の浦添ふ頭地区への受入れにつきましては、平成7年5月の日米合同委員会において浦添ふ頭地区へ移設することが日米両政府で合意（SACO 合意）されております。浦添市としても、受忍すべきとの苦渋の決断を致しました。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
113	P.25	<p>素案の最終頁のようなサンゴ礁はリーフエッジ付近、すなわ「物流空間」の78haの中にこそ残っている。物流空間の造成は中止し、現存の環境をそのまま残すべき。また、「交流・賑わい空間」の32haには稚魚や多様な甲殻類が生息しており、満潮時は多様な魚類が接岸し捕食している。稚魚のゆりかごであり成魚の捕食場所である当該地点の環境を破壊すれば周辺の生態系に影響が大きく及ぶことが懸念される。現時点で既に浦添西海岸は人々の交流の場となっており、人と自然の交流の場ともなっており、かけがえのない環境教育の場ともなっている。サンエーパルコシティのフードコートからの眺望はまさに絶景であり、多くの人が海岸線におり、礁池とのふれあいを楽しんでいる。埋め立て工事がスタートした途端に、この眺望は「絶景」から「地獄絵図」に転落してしまう。このような貴重な海岸の保全こそSDGsにかなう選択である。本海岸の埋め立てを伴う開発は、日本の、沖縄の恥部の世界への発信に他ならず、本計画を推進する沖縄県、那覇市および浦添市には、学校教育においてSDGsを語る資格は全く無く、SDGs教育を行うなどもってのほか、むしろ全職員がSDGs教育を喫緊に受けるべきである。浦添西海岸の埋め立てを伴う開発は、那覇軍港の移転計画も含めて撤回すべき。</p>	<p>那覇港港湾計画につきましては、那覇港全体の港湾機能や港湾空間の利用のあり方を定める計画であり、その策定・改訂は那覇港管理組合が行っているものです。浦添市西海岸周辺エリアはこの港湾計画の対象区域に含まれていることから、本市では、那覇港港湾計画や那覇港長期構想の内容を前提条件として踏まえつつ、西海岸周辺エリア全体の将来像や市としてのまちづくりの方向性を検討するために本基本構想を作成しているところです。</p>
114	(記載なし)	<p>自然の恩恵、海の恩恵を受けながら海、自然と共に生きてきた沖縄琉球に、まったくなじまない計画です。 日本の日本による日本の金儲けのための計画にしか見えない。地元の安心な暮らしや安全を考えた計画ではない。悲しい。</p>	<p>本基本構想では、浦添西海岸周辺エリアを「古琉球・浦添リーフエリア」と位置付け、イノーをはじめとする自然環境や歴史・文化などの地域資源を尊重し、活用することを基本的な考え方としています。牧港補給地区跡地利用計画等における「人と環境が共生する持続可能な都市の形成」との整合も図りつつ、自然環境の保全や市民の安全・安心、憩いの場としての価値を踏まえながら、西海岸周辺エリア全体の将来像を段階的に検討していくこととしております。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
115	全体	<p>P1) 西海岸周辺エリア基本構想(素案)について、サブタイトル?の「古琉球・浦添リーフエリア」の実現～の意味は?説明が無いのでよく分かりません。</p> <p>P21) ②西海岸周辺エリアのコンセプト及び取組み方針では、貿易等を盛んに進めたのが、浦添に王朝があった「古琉球時代」、海を大切に新しい未来の拠点づくりを進めるコンセプトとあるが、浦添ふ頭地区の埋立て、那覇軍港の移設による大規模な埋立て開発が進む中で④4つのコンセプトとの整合は困難であると思うが、大規模な開発による環境負荷が甚大なエリアでの自然環境との共生を図る対策をどの様に考えているのか</p> <p>P4) 背景・目的で、本基本構想は、この浦添市西海岸周辺エリアを対象に、上位計画や関連計画・各プロジェクトの考え方を踏まえつつ、中長期的な視点から魅力ある西海岸周辺エリアの将来像を描くとともに、具体のプロジェクトの実施を推進し、その実現に向けた取組みの方向性を示します。とあり、また、</p> <p>P17) ④西海岸周辺エリアづくりに求められる視点、視点1美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくりでは、自然に触れ合う機会の創出を通じてその大切さを人々で共有するとともに、自然環境の保全を図り、自然の持つ多様な機能を活かした取組みを進めることが求められます。地域の特性を踏まえ、必要かつ適切な新たな開発と自然環境の保全を両立したエリアづくりを目指します。とありますが、カーミージー浜地区は海浜公園の整備が計画されて用地は確保されているが、土砂等の整備は地中断・延期されたままである。本構</p>	<p>サブタイトルの「古琉球・浦添リーフエリア」は、P.15及びP.21を通じて記載しており、浦添に王府が置かれていた歴史（古琉球）と、カーミージーをはじめとするサンゴ礁（リーフ）に代表される海の自然環境という、浦添西海岸の特徴的な地域資源を総称的に表現しています。</p> <p>西海岸周辺エリアは、カーミージー周辺に那覇港港湾計画に位置付けられた「自然的環境を保全する区域」があり、今後もこうした自然環境の保全・活用を柱の1つに掲げてまちづくりに取り組んで参ります。</p> <p>既存の計画であるカーミージー海浜公園につきましては、P.30～33に記載の先行プロジェクト2港川周辺における海浜公園整備に関連する計画として、本市として引き続き検討を進めて参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
116	全体	<p>P26) 4 西海岸周辺エリアで進める4つの先行プロジェクト</p> <p>プロジェクト1：自然環境の保全・活用・啓発プロジェクト～カーミージー周辺におけるウォーターパーク開発構想～</p> <p>浦添の豊かな海洋環境の保全・活用・啓発（自然保全の学習や魅力発信）を図るプロジェクトについて本プロジェクトは、浦添の海・沖縄の海の魅力と価値をより多くの人に知ってもらい、さらには次世代に継承するため、カーミージー周辺エリアにおいて「自然環境保全の普及・啓発を目的とした新たな学習・体験の場となる広域的な拠点づくりを進めるものです。そのため、このエリアにおいて、自然環境の保全に努め、その活用により普及・啓発を行う機能導入を推進します。とありますが、AIが作成するイメージ図の指示・条件はどの様に収集・整理したのか？ポンチ絵に目が行ってしまうが、本来は、その具体的な内容を示す必要があると思うが、見解を伺いたい。</p> <p>P28) ～カーミージー周辺におけるウォーターパーク開発構想～について、図示されたエリアは、キャンプキンザーの制限区域海没地区であるが、米軍との調整は、ヒヤリング等は実施しているのか？跡後地のキンザー跡地との連携はどう考えているか。また、AIが作成するイメージ図の指示・条件はどの様に収集・整理したのか？ポンチ絵に目が行ってしまうが、本来は、その具体的な内容を示す必要があると思うが、見解を伺いたい。</p>	<p>本基本構想は、西海岸周辺エリアの目指す方向性・将来像を示し、その実現に向けた先行プロジェクトとして、カーミージー周辺における自然環境の保全・活用・啓発を推進する取組みの方向性やゾーニングのイメージを示したものです。</p> <p>今後、具体的な整備内容や整備位置について検討を進めて参ります。</p> <p>なお、AIで生成したイメージ図については、本基本構想に示した内容に基づいて作成したイメージであり、このまま実施することを決定したものではありません。</p>
117	全体	<p>5 今後の進め方 段階的な取組みの進め方について</p> <p>想定されるロードマップを示してもらいたい。短・中・長期に渡るスパンの流れ、誰が関わり、どの様な検討段階で意志決定して進めるか、基本的な考え方を示してもらいたい。次のステップである基本計画の作成は、いつになるか？</p>	<p>西海岸周辺エリアの整備については、まず来年度以降、基本計画の策定に向けた検討を進めることとしており、この基本計画の中で、プロジェクトの優先度や実施時期の見通し、事業主体や関係者の関わり方、主な検討段階と意思決定の流れなど、今後、具体的な検討を進める際に検討して参ります。</p>

No.	素案該当ページ	ご意見	回答
118	全体	<p>P30) プロジェクト2：海浜の適正な管理・利活用プロジェクト ～港川周辺における海浜公園整備構想～</p> <p>浦添市民、来訪者誰もが美しい海に親しむ環境を守り育てるプロジェクト</p> <p>今後、海洋環境の変化や周辺エリアの利用増加が見込まれる中、安全・快適に海に親しめる持続可能な環境づくりを検討します。</p> <p>カーミージー浜地区は、岩礁もあり遠浅でないので海水浴には不適である、また、海ごみが大量に漂着する海浜であることから、そのための対策が第1でそのためのバックヤード設備が必要である。保全活用するために何が必要か見解を伺いたい。</p> <p>AI が作成するイメージ図の指示・条件はどの様に収集・整理したのか？ポンチ絵に目が行ってしまうが、本来は、その具体的な内容を示す必要があると思うが、見解を伺いたい。</p> <p>P32) 4 プロジェクト2：海浜の適正な管理・利活用プロジェクト ～港川周辺における海浜公園整備構想～</p> <p>本頁のゾーニングイメージ図は初めて見るが、本構想（案）で検討されたのか？また、カーミージー海浜公園事業との整合はどの様に考えているか？</p>	<p>港川周辺エリアにつきましては、カーミージーをはじめとする歴史・文化や自然海岸としての価値を踏まえつつ、「海浜の適正な管理・利活用」を図ることを先行プロジェクトの1つとしました。自然環境の保全と、安全で快適な利用を両立するために必要な施設や仕組みについて、今後、具体的に検討を進めて参ります。</p>